

7月16日のウクライナ情報

安斎育郎

①トランプ政権、ウクライナに「攻撃用」ミサイル供与へ方針転換の見通し…米報道 (2025年 7 月 14 日)

【ワシントン＝池田慶太】米ニュースサイト・アクシオスは13日、ロシアのウクライナ侵略を巡り、トランプ米政権が14日に公表するウクライナへの新たな軍事支援に攻撃用兵器が含まれる見通しだと報じた。事実なら、緊張の悪化を避けるため防衛用兵器だけを提供するとしてきた従来方針の転換となる。

トランプ大統領はこれまで、14日にロシアに関して「重大発表」を行うと予告していた。

新たな軍事支援は、14日に行われるトランプ氏と北大西洋条約機構(NATO)のマルク・ルッテ事務総長との会談に合わせて公表される見込みで、長射程ミサイルが含まれる可能性がある。報道によると、米欧などの当局者は攻撃用兵器を含む支援が、停戦に後ろ向きなプーチン露大統領の姿勢を変えることを期待しているという。

トランプ氏は13日、記者団に対し、ウクライナに地対空ミサイルシステム「パトリオット」を追加供与する考えを重ねて示した。「彼らが切実に欲しているものだ」とし、費用は欧州諸国が負担すると説明した。「プーチンは素晴らしい会談の後、夜には爆弾を落とす。気に入らない」とも語り、プーチン氏への不満を強調した。



地対空ミサイルシステム「パトリオット」＝ロイター（読売新聞）

<https://news.yahoo.co.jp/articles/69f18e56571ced14a7c2975f45d2cb81dca0c760/images/000>

② プーチン政権、トランプ氏懐柔に見切り…ウクライナへの無人機攻撃急増・1日700機以上の日も(読売新聞、2025年 7 月 14 日)

ロシアのプーチン政権は、米国のトランプ政権がウクライナへの防空兵器などの追加支援にかじを切ったことを受け、トランプ政権の懐柔とウクライナ攻撃の「両にらみ」の戦略に見切りをつけ、前線での戦闘にさらに重点を置く見込みだ。ウクライナ全土への大規模な無人機攻撃を急増させるなど、圧力を強めている。

露大統領府のドミトリー・ペスコフ報道官は11日、トランプ大統領が予告した14日の「重大発表」について、「我々は声明の全てのニュアンスを注意深く記録する」と述べ、警戒感を示した。

プーチン政権はこれまで、対露融和姿勢を示すトランプ氏を称賛し、抱き込む戦略をとってきた。「停戦」の成果を急ぐトランプ氏を丸め込み、米国の後押しでウクライナに事実上の降伏を迫る目算だったとみられる。

だが、トランプ氏は5月末、和平に協力姿勢を示さないプーチン大統領に「火遊びをしている」と憤るなど批判のトーンを強めた。露メディアによれば、これらの発言を受け、プーチン政権は7月上旬、国営メディアに、これまで控えてきたトランプ氏に関する批判や否定的な報道を許可した。

露軍は6月以降、ウクライナ全土への無人機攻撃を急増させている。ウォロディミル・ゼレンスキー大統領は7月13日、露軍が過去1週間で長距離無人機1800機以上を発射したと明らかにした。多い日には1日700機以上が使われ、ポーランド国境に近いリビウなど西部も標的となった。戦闘の長期化は、和平交渉を不利にするだけだとウクライナ側を脅す構えだ。

ウクライナ側は、トランプ氏の方針転換を機に米国との関係強化をさらに進める構えを示す。トランプ政権でウクライナ特使を務めるキース・ケロッグ氏は14日、首都キーウでゼレンスキー氏と会談し、ウクライナの防空強化や対露制裁などを協議した。ゼレンスキー氏は会談後、SNSに「有意義な話し合いが行われた」と投稿した。



ロシアのドミトリー・ペスコフ報道官＝ロイター（読売新聞）

③ ゼレンスキー氏、首相交代を検討 対米関係の強化狙いか(KYODO、2025年7月14日)

【キーウ共同】ウクライナのゼレンスキー大統領がシュミハリ首相の交代を検討していることが14日、政府関係者への取材で分かった。後任としてユリヤ・スビリデンコ第1副首相兼経済相(39)が有力視される。スビリデンコ氏はトランプ米政権との経済交渉で中心的役割を果たしており、対米関係強化につなげる狙いもありそうだ。

首相交代は大規模な内閣改造が伴うとみられる。シュミハリ氏は国防相就任が取り沙汰されている。

スビリデンコ氏は、今年4月に米ウクライナが合意した経済協定の交渉を主導した。大阪・関西万博で8月5日に開かれるウクライナのナショナルデー行事に合わせ、来日する意向を表明している。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/6645a38bf976ff75e61fc03a77170babdf8d53e0>

④ゼレンスキー大統領「露軍の夏季攻勢は失敗しつつある」 ロシアに新たな長距離攻撃を予告(産経新聞、2025年7月14日)

ロシアの侵略を受けるウクライナのゼレンスキー大統領は13日、露軍の夏季攻勢が失敗に終わりとつつあるとの認識を示した。ウメロフ国防相やシルスキー軍総司令官らと戦況に関する会議を開いた後、交流サイト(SNS)で表明した。「戦争を露領内へ移すために必要な全てのことをする」とし、「(ロシアへの)新たな長距離攻撃を準備している」とも明らかにした。

ゼレンスキー氏によると、会議では東部ドネツク州ポクロウシクや東部ハルキウ州、南部ザポリージャ州、北部スムイ州など「重要方面の戦況」が協議された。ゼレンスキー氏は「攻勢の拡大を図ろうとする露軍の試みはウクライナ軍の防衛で失敗に終わっている」とし、「この夏、露軍部隊(の前進)は露司令部の期待を大幅に下回っている」と指摘した。

ウクライナ軍報道官は13日、東部ドニプロペトロウスク州の州境で両国軍の戦闘が続いているものの、同州内に露軍はいないと説明した。ウクライナメディアが伝えた。

露国防省は6月上旬、露軍が同州に進軍したと発表。親露派勢力幹部は同月下旬、露軍が同州の集落1カ所を初めて制圧したと主張していた。

ウクライナの有力軍事メディア「ディープステート」は今月12～13日、ドネツク州と東部ルハンスク州の計3集落が露軍に制圧されたと伝えた。(小野田雄一)



ウクライナのゼレンスキー大統領 (株式会社 産経デジタル)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/5727fd1eb67a2020a33e342a6b9c95a0b222435f/images/000>

⑤ 兵器は NATO が費用負担とトランプ氏(KYODO、2025年 7 月 15 日)

【ワシントン共同】トランプ米大統領はウクライナに供与する兵器について、北大西洋条約機構(NATO)が費用を負担し、ウクライナに送られると説明した。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/c416da9fe95b869b1a5288e3250814d4dc4b266d>

⑥ 【速報】トランプ大統領「50 日以内に停戦合意できなければ“非常に厳しい関税”」ロシアに強い圧力(TBS News Dig、2025年 7 月 15 日)

アメリカのトランプ大統領はウクライナ侵攻を続けるロシアが 50 日以内に停戦に合意しなければ、ロシアに対する厳しい制裁関税を課すと表明しました。

トランプ大統領

「私はとても、とても、ロシアに対して不満だ。だから、我々は 50 日以内に停戦合意が成立しなければ、非常に厳しい関税を課す」

アメリカのトランプ大統領は 14 日、ロシアが 50 日以内にウクライナとの停戦に合意しなければ、ロシアに対して「非常に厳しい関税」を課すと表明しました。

ロイター通信によりますと、ホワイトハウスの当局者はロシアからの輸入品に対して 100%程度の関税を課す見通しだと説明しています。

また、トランプ氏はロシア産の石油を買っている国からの輸入品に関税を課す「二次関税」を導入する意向を示しました。

中国やインドを念頭にロシアの主な収入源となっている石油を購入しないよう圧力をかける措置で、トランプ氏は厳しい制裁の可能性を示してプーチン大統領に合意を迫ったかたちです。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/19415229ed5706c83c914d875d15fbde7f4437a9>

⑦トランプ大統領はなぜプーチン大統領にそんなに怒っているのか？(2025年7月10日)

本稿では、トランプ大統領がウクライナへの軍事物資供給を再開した決定について、これまでの決定や政策転換を踏まえつつ、また、過去 3 ヶ月間の彼の決定のパターンを、これまでの公約を踏まえて検証する。トランプ大統領は平和推進者としての役割を放棄しているのだろうか？それとも、ネオコンに屈服しているのだろうか？

ブロフキン博士はアメリカの歴史家で、ハーバード大学でソ連史の教授を務めた経歴を持つ。ロシアの歴史と政治に関する著書や論文を多数執筆している。最新著書『ウラジーミル・レーニンからウラジーミル・プーチンへ：アイデンティティを模索するロシア』(Routledge、ロンドン 2024 年)は、Routledge.com、Amazon、Barnes & Noble で入手可能。

<https://youtu.be/gLKTxAQnMwo>



<https://www.youtube.com/watch?v=gLKTxAQnMwo>

⑧ダグラス・マクレガー：ロシアのドローン戦争はウクライナを攻撃目標に変える - ゼレンスキー大統領、損失を嘆く(2025年7月13日)

ダグラス・マクレガー大佐は、ロシア・ウクライナ戦争の残忍な新たな局面を暴露する。ドローンは単なる攻撃にとどまらず、支配する。数百機もの無人機が夜な夜な飛び交う中、ウクライナの防空網は圧倒され、戦略拠点は破壊され、指揮系統は崩壊した。

ロシアが戦場をハイテクな射撃場と化す中、ゼレンスキー大統領は増大する死傷者と領土喪失を公然と嘆いている。これはもはや前線の戦いではなく、崩壊の戦争だ。NATO はウクライナが少しずつ崩壊していくのを沈黙して見守っている。

<https://youtu.be/bTNKt4pj88E>



<https://www.youtube.com/watch?v=bTNKt4pj88E>

⑨【時事ネタ】BRICS とトランプ～譲れないモノ～7/12 土曜版です(2025年7月12日)

第17回ブリックスサミットがブラジルで開催。苛立ちをみせるトランプ大統領、その心は?!

<https://youtu.be/ZHXLxti6JII>



<https://www.youtube.com/watch?v=ZHXLxti6JII>

⑩【戦況】ロシアの無人攻撃機製造量が10倍増☹!!7/13 日曜版です☹↓!!(ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2025年7月13日)

<https://youtu.be/psO6pBD8Hak>



<https://www.youtube.com/watch?v=psO6pBD8Hak>